

せつ明文の内よつを読みとる

名前	組	月 日	正答数
	番		
			3



●書かれていますることを正かくに読みとる。

もんだい

つぎの文しようを読んで、あとのもんだいに答えましよう。

ギンナンをたべたことがありますか。ギンナンは、イチヨウのたねです。とてもかたい皮かわにつつまれています。

ギンナンがたねだとすると、かなづちでたたかないとわれないほどの、かたい皮をやぶって、めがでてくるはずですね。そこで、ギンナンを土①にうめてみました。すると、どうでしょう。ギンナンのすじのところがわれて、根ねがのび、やがて、めがでてきました。そして、つぎつぎとでてきた葉はは、イチヨウの葉とそっくりです。ギンナンは、まちがいなく、イチヨウのたねでした。

それでは、ギンナンをつくる花は、どんな花でしょう。イチヨウの花は四月ごろさきますが、花びらがなくてめだたないので、気をつけて見ていないと見つけることができません。

イチヨウの花には、め花はなとお花はながあります。そして、め花をつける木(め木)と、お花だけをつける木(お木)にわかれています。

お花の花粉かふんは風ではこばれてきます。これをめ花がうけとらなければなりません。そこで、め花は、うまいしくみをもっています。め花のさきとうめいなえきをだして、水たまをつくります。この水たまに花粉がくつつくのです。すると、えきはしだいにかわいて、花粉はめ花の中にすいこまれるのです。

花粉をうけとっため花は、秋には、黄色くじゅくしたたねをつくります。じゅくしたたねの外がわの皮はやわらかく、これをつぶすと、いやなにおいがあります。このぶぶんをきれいにとってしまったのが、ギンナンです。

ソテツやアオキなども、め木とお木にわかれてしんぶついる植物のなかまです。

(真船和夫・江川多喜雄「花の咲くひみつ」より)

◆読みとりのポイント①◆

① 何について書かれているかを、とらえましょう。

② ①くりかえし出てくることばがあったら、それについて書かれています。

③ ②といかけの形やぎもんをしめす形があったら、それについて書かれています。

「ギンナンをたべたことがありますか。」

「ギンナンをつくる花は、どんな花でしょう。」

↓ギンナンやギンナンをつくる花について書かれています。

- (1) ^①ギンナンを土にうめてみましたとありますが、どんなことを知るために、こんなじっけんをしましたか。つぎの□にあてはまることばを、文しよう中からぬきだしましょう。

ギンナンのかたい

をやぶって、

がでてくるかどうか。

◆読みとりのポイント②◆

① せつ明されている内ようを、正しく読みとりましょう。

ギンナンとイチヨウの花のとくちようをおさえましょう。

〈ギンナン〉

・イチヨウのたね。

・かたい皮につつまれている。

・ギンナンのめからでてきた葉は、イチヨウの葉とそっくり。

・イチヨウのたねの外がわの皮をきれいにとったもの。

〈イチヨウの花〉

・四月ごろさく。

・花びらがなくてめだたない。

・め花(め木)とお花(お木)がある。

・お花の花粉は風ではこぼれる。

・め花はえきをだして水たまをつくり、花粉をくつつける。

・秋には、黄色くじゅくしたたねをつくる。

- (2) イチヨウの花がさくのはいつですか。つぎから一つえらびましょう。
- 1 春 2 夏 3 秋 4 冬 〔 〕

- (3) ^②め花は、うまいしくみをもっていますとありますが、どのようなしくみですか。つぎの□にあてはまることばを、文しよう中からぬきだしましょう。

め花のさきにとうめいな

をだして、

をつくり、こ

れに

がくつつく。

せつ明文の内よじを讀みとる



- (1) 皮・め
(2) 1
(3) えき・水たま・花粉

- (2) 「イチヨウの花は四月ごろさきま
す」というせつ明があります。
(3) 文しようの後半に、め花の中に花
粉がすいこまれていくしくみがせつ
明されています。